



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7407:県病ニュース係
 ※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

麻酔科

救急救命士の気管挿管実習

～救命率の向上を目指して～

急病の人や負傷した人を救うには、できるだけ早く病院に運ぶことが重要です。しかし、心臓や呼吸が停止してしまった人の場合はそのまま病院への搬送を待っているのは手遅れになることがあり、現場で直ちに蘇生処置を開始しなければなりません。現場に駆けつけて迅速な蘇生処置を担うのが救急救命士です。

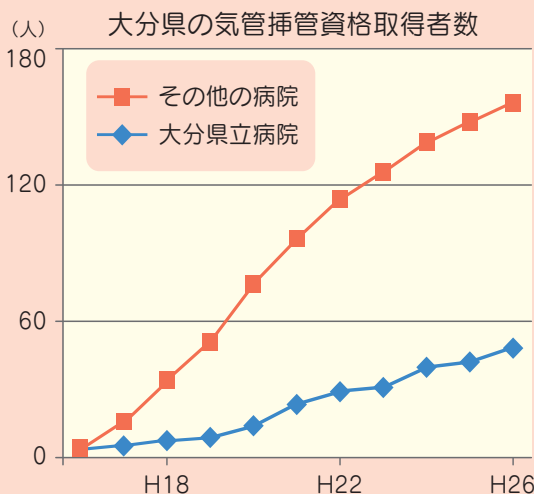
救急救命士は消防署に採用されてから、消防の仕事に身を付け、救急の研修を受けた後、救急の仕事を実際に行っている人のうちから選抜され、専門の研修所で半年間の研修を受け、その後国家試験に合格した人たちです。また、救急救命士の専門学校で学んだ後、国家試験に合格した人たちもいます。

救急救命士は心肺停止患者に対し、心臓が再び正常に動き出すように行う除細動(電気ショック)のほか、医師からの電話による具体的な指示(メディカルコントロール)のもとに行う特定行為として、気道確保のための器具を用いたり、静脈路確保のための点滴を行ったりすることなどが認められています。救急救命士によって病院外での心肺停止患者にタイムリーな救命処置が行われることにより、社会復帰する人をひとりでも増やそうとしています。



このような救命処置のひとつとして、口から気管内に人工呼吸用のチューブを入れる**気管挿管**があります。この処置により確実に気道が確保され、肺に直接酸素を送ることで心肺蘇生処置を行いやすくなり、蘇生の成功率が高くなります。また気管挿管により、痰や誤嚥された嘔吐物を取り除きやすくなります。欧米の救命士は以前から気管挿管することが認められていたのですが、我が国でも救急救命士に気管挿管の資格を与えて救命率向上を目指しています。

当麻酔科では、救急救命士のための気管挿管の実習を行っています。実習を受ける救命救急士は研修所での講義を受け、実習用人形で十分な実技訓練を受けて習熟していますが、修了書を受けるには、病院で全身麻酔を受ける患者さん30人以上に対して、麻酔専門医の前で気管挿管をして見せなければなりません。もちろん麻酔専門医が指導しながら行いますので、患者さんの安全は十分に確保されています。しかも救命救急士が担当するのは気管挿管のみですので、以後の麻酔管理は麻酔専門医が責任を持って行います。心肺停止患者を一人でも多く社会復帰できるようにするために患者さんのご協力をお願いします。



(麻酔科 部長 宇野 太啓)

診療支援センター 地域医療連携班

地域医療連携班のご案内



地域医療連携班は、地域の医療機関や介護施設等と連携し、患者さんやご家族の皆様に医療サービスを提供する窓口です。

紹介患者専用窓口

病院・診療所等から紹介された患者さんについては、専用の窓口で対応しています。紹介状(診療情報提供書)をお持ちの方や二次検診の方はこちらで受付けています。事前に各医療機関から「FAX予約診療受付票」をお送りいただくと、受診される診療科の予約を取ることができますのでご利用ください。

※詳細は大分県立病院のホームページ(<http://hospital.pref.oita.jp/>)に掲載しています。その他、外来受診に関するお問い合わせに対応しています。

入院患者さんの退院に関する相談・調整

当院で治療し、退院が可能となった患者さんやその家族の方が、安心して転院したり、在宅療養をしたりすることができるよう、他の医療機関や福祉施設、担当ケアマネージャー等と連携を図り、円滑な退院に向けた支援を行っています。



医療、介護・福祉に関する相談

「医療相談室」の職員と協力して対応します。たとえば各種制度の紹介、申請手続きのご案内や各機関との連絡調整など患者さんやご家族の方々のお力になれるように対応しています。

構成メンバー

診療支援センター長(医師)、社会福祉士(MSW)3名、看護師2名、事務職員5名です。